

ここにいま

平成29年度西朝明中学校
学校通信 第14号
平成30年3月23日

本日で平成29年度が修了します。晴れて平成30年度には全員が進級することになります。おめでとうございます。

本年度の本校が、重点課題として取り組もうとしたことは、

- ① 生徒の皆さんの学力を向上させること。
- ② 不登校の生徒を減らすこと。
- ③ 生徒の自主的な活動を活発にすること。

他にも沢山ありますし、細かく見ればより深くということもありますが、大きく分けて、この3つでした。

①については、前号でも記述したように、「学びたいむ」と「自主学習ノート」に取り組むことにしました。「学びたいむ」の課題については、来年度に改善を図ります。生徒の皆さんも有意義な時間になるよう心掛けて、一所懸命に取り組んでください。「自主学習ノート」は1・2年生は文字通りに自由に任せました。何の教科でもよろしいとしたわけですが、1年間で振り返ってノートを見比べてみてください。4月の初めに取り組んだ頁と3月最後のページの自分の字をです。沢山、取り組んだ子ほど沢山の字を書きました。だから、「自分の字」ができあがりつつあるはずです。はっきりと読みやすい字を濃く、きちんと書いていることがわかりますか？それこそ、取り組んだ子の成長の証しです。勿論、沢山取り組んだ子は沢山の賞状をもらったはずですね。（正直、字がうまくない校長先生は、全員分を書くのが大変でしたが、それは嬉しいことでした。ありがとう、ご苦労様でした。）

勉強の方法や内容は全く個人のものであって、真似をしてみるのはいに結構ですが、受け売りは必ずしも自分に適した方法や内容かという、はつきりとはわかりません。だから、試行錯誤の連続で構わないし、その時の自分がベストと考えられる方法や内容で学習したら良いのです。

前号から今回までに頑張って学習してくれて、増加した分は下のようになっています。どうか、今後も（春休みも！）学習を少しずつで良いので続けてくれることを期待しています。



	努力賞	奨励賞	敢闘賞	優秀賞	最優秀賞
1年生	+1	+1	+2	+3	+1
2年生	+3	+5	+1	+2	±0

②については、保護者の方だけでなく、先生方も随分、悩んで考えていました。何より、学校に来られなくなっている本人が、最も悩み、苦しんでいるだろうと推察します。

ア まずは、なぜ来られなくなっているのか、原因を探ります。本人やご家族の方とお話しをすることからスタートします。

イ 原因がわかれば、原因の解消に努めます。でも誰ひとりとして、他の子と同じということがなく、なかなか解決策が見つからないことが悩みでした。

ウ 学校では、会話したり相談したりして、さらにスクールカウンセラーの先生と懇談して、という具合に、徐々に不登校になってしまっている原因の核心に迫ろうとしてきました。

エ 学校だけでは解決の糸口が見つからない場合には、それぞれの子によって、外部の関係機関と相談したり、場合によっては医療機関とも相談して解決策を探ってきました。

ただ、不登校になってしまっている原因がわかったとして、その原因を取り除いてもすぐには登校できるようになるとは限りません。また、既に生活リズムが変わってしまっていて、対応ができない場合などがあり、なかなか即効性のある手立てが見つからず今日に至っています。苦しんでいる本人とご家族には大変、申し訳のないことですが、これからも何らかの糸口を見つけようと探っていきたいと思います。不登校だった子が学校に戻ってきてくれた例も沢山、ありますから、根気よく考えていきたいと思っています。

防災グッズの 点検と確認を!



③は、生徒会に委ねることが多かったことです。定例の生徒議会や専門委員会の活動内容だけでなく、清掃ボランティアを募って実践したりしてくれました。昨年は、生徒会の実践を発表して奨励賞をいただきました。本年は、防災訓練のお礼として地域での防犯啓発活動を「防犯@西朝明」として開催し、発表してくれました。地域の方々の全面協力をいただいて実現していったわけですが、その際に、次は最優秀賞を獲れるように、と様々な助言も地域の方からいただきました。結果として「中学生の情報・発信」では、本年は優秀賞を頂戴しました。また、四日市北警察署長さんから感謝状をいただきました。

このような自主的な活動は、生徒会本部だけのことではなく、本校の生徒会の会員なら、誰でも企画・提案できるし、最後は生徒議会で検討してもらって、議決してもらえれば、全校の取り組みとなっていくと思います。会員からの企画・提案を実行に移してみんなで実践するというのが、最も素晴らしい生徒会だと思います。このような姿を期待するのは、私が欲深いのでしょうか？少なくとも、自分たちの発案でできることがある！と知った生徒の皆さんなら、きっと来年度には実現できるのではないかと期待しています。

定例の内容を粛々とこなしていくだけでは、先生からの指示にしたがってこなしていくだけです。生徒の皆さんが学ぶことが少ないまま終わってしまうと思い、とても残念なのです。どうやったらみんなが参加してくれる企画になるのか、それをどう提案すれば良いのか、そして実際の運営はどうするのがベターなのか。そういった体験がいつか、どこかで生きてくると思います。生徒会の役員の皆さんには、そんな経験をしてほしいと願っていました。役員でなくても、生徒の皆さんがいろいろな体験をしてほしいと思っていました。また、いろいろな挑戦もしてほしいと考えていました。だから、長期休業前の各種の募集を沢山、皆さんにお知らせしました。今までなら耳にしたこともないような賞が沢山あったのは、そのお知らせに呼応して、皆さんが取り組んでくれたからこそその結果なのです。それは自分の可能性を探る、もしくはは広げるということを目指してのことでした。

勉強して考え方や見方を身に付け、知識と技能を習得することは、将来の生活の糧を得る元になります。高々、中学校では10教科の学習ですが、あまたの学問の初歩を学んでいるにすぎず、学ぶべきことはこれからどんどん膨らんでいきます。また、中学校での学習は教科に限られたものではありません。生徒の皆さんは、どの程度まで学習の幅や量を膨らませることができるのでしょうか？

部活動で心や身体を鍛え、生き抜くための体力を身に付けることは、将来の生活を安定したものにしていきます。生活していくのも、レジャーで遊ぶのも、何をするのも身体が資本なのです。

***** 保 護 者 の み な さ ま へ *****

年度末がやってきました。定例の人事異動があります。平成29年度末で、定年退職・昇任・転勤・採用等の理由により、本校を去る教員は、以下のとおりです。

それぞれの年数により長短はありますが、随分と保護者の皆様・地域の皆様にお世話になりました。本校での職務を何とか大過なく終えることができましたのも、ひとえに皆様の温かいご支援・ご協力とご理解の賜物であると、異動する教員全員が感謝しております。

離任にあたっては、次の任地をお知らせすることができませんので、大変心苦しいのですが、ご了承ください。

これまでのご厚情に、厚くお礼申し上げます。



山田 健一	先生 (校長)	伊藤 信泉	先生	渡辺 厚司	先生
渡邊 佳苗	先生	打田 晃士	先生	竹内 洋巳	先生
吉田 歩未	先生	谷口 順子	先生	新美龍一郎	先生